が、かゝる統計的處理を徒らに重視した爲めか、一見科學的には見えるがどこか深みがない。この種の問題を扱つたハウスホーファーの「グレンツェン」などに比べて遜色あるを免れない。尤もこの書が大學の講義をまとめたものであり、著者が序言にも言ふが如く歐洲動亂の勃發によつて精細な研究が行はれ得なかつたとすれば些か酷評に過ぎるかも知れぬ。ともかくも本書が國境を大觀し、それにからまる有らゆる問題を明確に叙述してゐることは國境政治地理學のテキストブックとしての價値を充分ならしめてゐると思はれる。

今や吾らが理想は八紘一宇の精神であり、そこには從來の如き國境の概念はない。國境問題の如き地を掃つて存すべき筈がない。唯あるものは上、皇道と下、所を得て聚壊滅腹する民のみである。しかしながらかゝる理想は直ちに實現すべきものでなく、その實現には尚多くの段階があるは言ふまでもない。かゝる段階に於ては尚多くの國が存續し、國境はそれら諸國の紛爭の地盤となるであらうことは容易に考へられる。國境問題は多くの國境の不自然から起るといふ。果して然らば、國境を自然に復し、本然の姿に歸せしむれば國境問題は永久にこの世界より消滅する。之卽ち皇道闡顯の姿であらねばならぬ。かく考へればこの研究は理想實現の爲めの不可缺の手段とも言へる。

この意味に於て今こゝでは本書の出現を禮讃して置かうではないか。（本文二七二頁、丸善發、拾四圓六拾錢）（柴田幸夫）

古代科學

ハイベルク著
平田寛譯

「本書は弘く讀まるべき書として、かずかずの示唆を含んでゐます。しかも本書を讀まれる各人の立場によつて、これらの示唆にもおのづから强弱の度が顯れるやうに思はれます。たとへば、今日の科學者（廣義での自然科學者）が本書から何か有益な科學知識をえようとされても、ほとんどそれは徒爾に終るでせう。だがひとたび、希臘人たちが科學を『創造した』といふ一點に想到されるならば、今日のわが國の科學者ほどそれを切實に必要とするひとびとはゐないでせう。希臘人たちのあの逞しい創造的精神こそは彼等の誤謬に滿ちた科學的業績を償つてなほあまりあるものと思ひます。彼等にあつては、科學とは職業であるまへに、まづ自然に對する純粹な探究そのものだつたのです。コペルニクスに對するアリスタルコスの意義を强調すること以外に、この創造的精神を把握することが何よりも大切だと思ひます。

本書が科學史の一部であるといふ點からは、歴史家にとつても重要な示唆を與へるでせう。文化における科學の役割を十分に察知してゐながらも敢て科學の內容を知得しようとしなかつた歴史家（こゝでは特に古代文化史家）は、こゝに新たなる生氣をえられるにちがひありません。古代東洋の『術』から古代希臘の『學』への推移における外在的條件の闡明、古代における科學と宗教との關

驗、エウクレイデス（ユウクリッド）の『原論』の文化史的意義、羅馬的本質と科學の重要性などは、歴史家に多くの重要課題を提供するでせう。

さらにまた、本書はその他のひとびとにもいろいろの示唆を與へるでせう。とりわけ、近代科學の恩惠を重視する人も輕視する人も、その背後に横はる傳統の長さと強靱さとには驚かれるでせう。そしてわが國の科學の傳統が百年たらずにすぎぬことを思ふとき、ある種の焦躁を感じられるに相違ありません。今日わが國の科學界が立派に世界的水準に達してゐるにもかゝはらず、ときどき忍びよるあの堪へられぬ不安は、じつにこの貧弱な傳統の仕業にほかなりません。急速に外國と比肩しうるために、科學者と一般民衆とは極度に離間され、たゞさへ短い傳統がそのため小範圍にのみ限られてしまつたのです。このわが國科學界の弱點を如何にして除くべきか、こゝにわれわれが科學史の問題を取り上げる一つの根據があるはずです。

「古代科學」の名を以て譯出せられた Heiberg の Naturwissenschaften, Mathematik u. Medizin im klassischen Altertum. 2te Aufl. 1920. が、科學振興の切實に要請せられつゝある今日、若し私が冗長を厭はず右に引用した譯者の言葉の如く幾多の示唆を與へ、又國民各層の精讀を已み難からしむるが如き魅惑的内容を有するならば、其譯業は本譯書の如く、原書の眞意を遺憾なく傳ふるに足る適確にして流暢なる邦譯を以てして既に其使命を完全に果し得た筈である。況んや、譯者が各章毎に、原書には見得られぬ洵に詳細なる譯註及び圖版挿入を試みられ、原書の眞價をよりよく理解せしめられんとする眞摯にして良心的なる態度に對しては、衷心敬服の念禁じ難きものあるを覺える。

從つて吾々には唯、原著其物が果して譯者の言葉通り、洵に多方面に亙る關心を喚起し又反省を促して已まない處のものであるのか、換言すれば本書の譯出が今日の吾國にとつて廣汎なる意義を有するか否かの疑問提出が殘されてゐるのみなのである。

私は素より一介の歴史研究の徒であつて、此書が自然科學者に何を教へ、又科學振興を叫ぶ政治家に何を訴へるかは窺知し得ない。私は唯、是が吾々の科學史研究の態度に就いて特に新しく啓示する處のものあるかを知らんとするのみなのである。

處で、知識の集積にのみ留つて其だけでは何等學を成立せしめないとは久しく人の强調する處ではあり乍ら、而も今日尚博識者が學者と混同され勝ちであるのは如何なる理由に基くのであらうか。殊に斯る弊風が、不幸にも歴史學の領域に於て顯著に見得るの現狀である今日、例へば著者が其劈頭神話的な考へ方を基礎としてゆけば、なるほど正確で貴重な觀察を堆積することはできるかも知れない。だが、科學はこゝからはほとんど殘生しないのである。それは丁度、科學が實際的な必要から生れた熟練と巧妙からも成立しにくいのと同樣である云々」と述べ、科學の發達は、宗教性と實用性より解放せられた時に初めて可能であるとの見解を以て貫かれてゐる本書の如きは、其處に科學史に對する一つの解釋を生み且一貫せる體系を以て構成せられてゐる以上、確かに

一つの正しき科學史研究の立場を指示するものとして意義深きものを有つものと謂はざるを得ない。

然し乍ら、其にも不拘私は、著者が古代科學者の業績叙述や古代科學の系譜的解明に終始する事を避けんとし乍ら、而も尙其に徹し得ざるものあるを認めざるを得ないと同時に、著者の如く宗教性、實用性よりの解放卽科學の發達と斷定するは、科學發達の原因究明に對する餘りにも單純なる考へ方ではあるまいかと思はざるを得ない。合理主義を生命とせる科學の發達は、非合理的なる宗教的桎梏より解放せられる事に依つてのみ可能ではあつても、實用性が果して科學の發達を阻害するものであるか否かに就いては、私は多大の疑問を抱かざるを得ない者であるからである。素より卑俗なる日常的實用性は、安大にして深遠なる科學の發達を停滯せしめこそすれ促進はしないであらう、然し歷史的合理性に依つて貫かれた實用性を荷負つた科學は、却つて其故にこそ眞に生命あり充實せる內容と具體性を有つた科學として發達する筈であり、又事實發達したのだからである。吾々は科學を、餘りにも世俗的なものに緊密容易に結びつくと考へてはならないと共に、又餘りにも超越的なもの永遠なものと考へてはならないのではなからうか。永遠なるものは、歷史の中に具體化せられる事に依つて却つて永遠の生命を有つ物であり實在となる。古代科學發展の跡を展開明示せんとする本書が、歷史的究明を志し乍ら尙素朴なる歷史主義の立場を脫脚し得ないものではなからうかとの危惧を抱く者、私一人ならば幸であり又私の理解の至らなさを深く恥ぢる者である。

ハイベルクは謂ふ迄もなく、古代科學史の權威である。而も其深遠なる研究の成果が、邦譯小四六版にして僅かに二百頁の中に著はされてゐるのである。本書の中に於て、古代科學史が有つ諸問題が凡て完璧に解決せらる可きであるとするが如き批判は嚴に愼まれたければならないし、又著者の一言一句の中にも吾々の容易に思ひ及ばざる含蓄多き內容のあるであらう事を知らねばならない。況して私は、譯者がいみじくも警告せられた「文化における科學の役割を十分に察知してゐながらも、敢て科學の內容を知得しようとしなかつた歷史家」の一人であつた。私が本書譯出の意義に就て愚見を述べたのは、唯原著が果して吾々に、科學史研究の態度に就いて特に新しき示唆を與へ、從つて其處にも此邦譯の意義が存するか否かを探ねんとした爲に外ならなかつた。私が此譯書に依つて古代科學に關して教示啓發せられた事は、素より數限りなく多かつたのであり、恐らく其は一般讀者に對しても然るであらう。「科學する心」の高く叫ばれつゝある今日、西洋史專攻の學究は素より、一般讀者の精讀を薦めて已まざる者である。

（創造科學叢書(2)、定價壹圓六拾錢、創造社發行）〔西井克己〕

G. Ricciotti : Histoire d'Israel

Paris 1939

羅馬ラテラン聖約翰修道僧たるリチオッチの原著をパウル・アウヴレに依りて佛譯されたるもの。二編より成り、第一册は本文